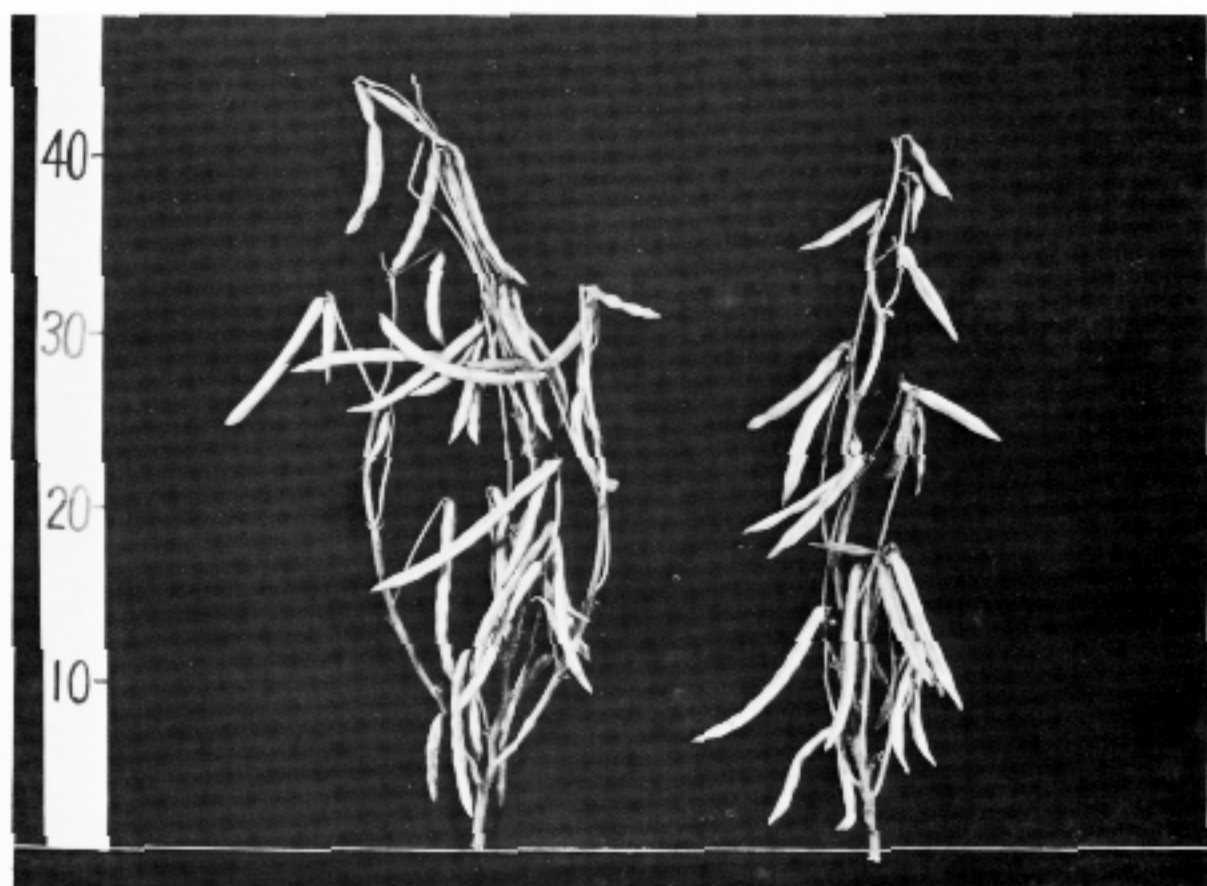
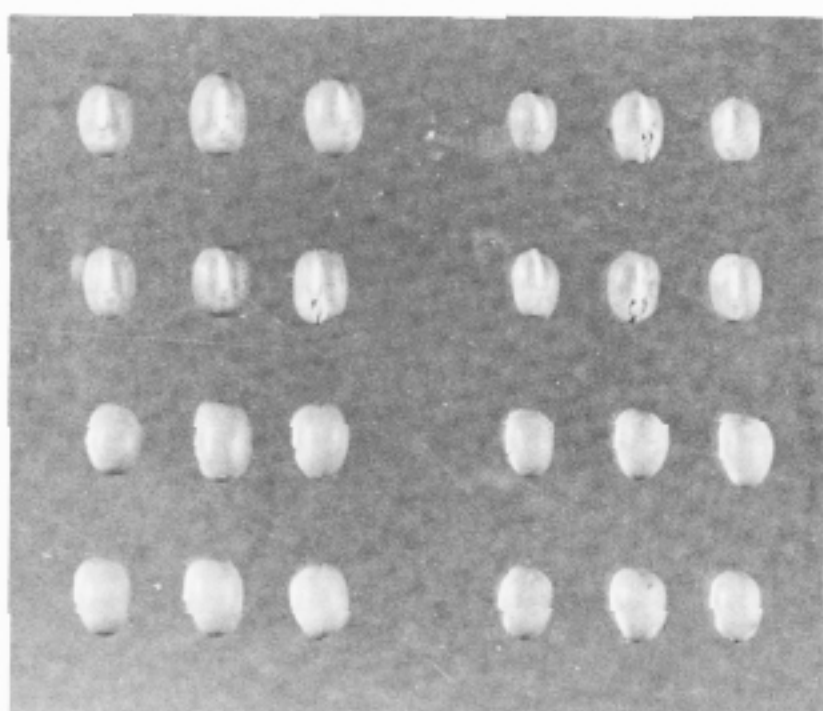


[ホッカイシロショウズ]



ホッカイシロショウズ

白小豆 (川西)



ホッカイシロショウズ

白小豆 (川西)

ホッカイシロショウズ

登録番号 あずき農林3号

登録年月 昭和54年6月

旧系統名 十育93号

育成場所 道立十勝農業試験場

1. 来歴

「ホッカイシロショウズ」は、北海道に適する白色品種の育成を目標として、昭和41年、北海道立十勝農業試験場において交配をおこない、以降、集団および系統育種法で育成を継続してきた、中生の良質、多収系統である。

交配は、在来種「白小豆（川西）」を母に、「茶殻早生」を父としておこなった。「白小豆（川西）」は、平年時には成熟期に至るが、収量は極端に低く、また品質も悪いので、これを改良するため、この交配がなされた。F₂~F₄代は集団で栽植し、F₄代で個体選抜をおこなったが、昭和46年、系統選抜個体の収量が少なかったため、生産力検定予備試験より個体選抜をおこない、以降、選抜固定をはかってきたものである。昭和53年度は世代が進み、実用的に固定したと思われるので、採種のみをおこなった。昭和46年から昭和49年にかけて「6003」の系統名で生産力検定予備試験をおこない、昭和50年以降「十育93号」の地方番号を付し、生産力検定試験、特性検定試験、育成系統地域適応性検定試験、奨励品種決定基本調査および現地調査を行い、地方適否を確かめてきたものである。

2. 形態的特性

茎色、花色、葉色等は「白小豆（川西）」に類似する。草丈は「白小豆（川西）」に比べて4~5cm高く、分枝数、莢数も多い。熟莢は「白小豆（川西）」に比べて長く、白色で、1莢内粒数も多い。

子実の形状は短円筒で種皮色は黄白色である。

3. 生態的特性

開花始めは「白小豆（川西）」に比べて2~3日早く、成熟期も3日ほど早い中生種である。耐倒伏性は「白小豆（川西）」に比べてやや強い。また、耐冷性も「白小豆（川西）」に比べて強い。

平年における子実収量は「白小豆（川西）」に比べて50%前後多収であるが、低温年あるいは生育の遅延する年次における収量低下は「白小豆（川西）」に比べて著しく少い。

粒重は140g程度で「白小豆（川西）」に比べて20gほど大きい。層豆歩合は「白小豆（川西）」の半分位で、品質もよい。種皮の厚さは「白小豆（川西）」に比べてやや薄く、種皮歩合は低い。

4. 栽培適地

北海道の道央、道南の気象条件の良好な地帯及びこれに準ずる地帯に適する。

5. 奨励品種採用具

北海道（昭和54年）

6. 栽培上の注意

一般小豆に準じてよいが、不良環境下（低温、過湿）では発芽率の低下が懸念されるので、種子量を増し、必ず種子粉衣剤を使用すること。また多肥はさけること。

耐冷性は「白小豆（川西）」に比べて強いが、他の優良品種に比べてやや劣るので、気象条件の不良な場所では生育遅延となり、収量、品質の低下をまねくので、そのような場所での栽培はさけること。

草丈は他の優良品種に比べて低く、耐倒伏性がややまさり、密植条件に対する反応が高いので、密植することにより増収が期待できる。

7. 育成地における試験成績

(1) 主要特性

品 種 名	葉			毛茸の形状	花 色	茎 色	草 丈	熟 期	熟 莢 状			子 実			種 皮	
	形	大小	色						色	形 状	形 状	大きさ	色	厚 さ	歩 合	
ホッカイシロショウズ	円	大	ヤ淡緑	鈍	黄	緑	ヤ低	中	白	やや太くやや短かい	短円筒	中	黄白	0.0751mm	8.44%	
白小豆（川西）	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	白	やや太く短かい	〃	〃	〃	0.0847	9.60	

(2) 生産力検定試験成績（昭和50～53年平均）

品 種 名	開花始 （月日）	倒 伏 程 度	成熟期 （月日）	草丈 （cm）	主茎 節数	分枝数 （本/株）	莢 数 （コ/株）	茎 太 の 太 さ （mm）	一莢 粒数	10 a 当たり			子実重 歩 合 （%）	1000 粒重 （g）	層豆 歩合 （%）	品質
										総重 （kg）	子実重 （kg）	宝比 （%）				
ホッカイシロショウズ	7.27	1.0	9.18	46	12.3	3.1	49	5.13	5.29	414	236	183	57	140	9.5	4上
白小豆（川西）	29	1.1	9.21	42	12.3	2.3	42	4.75	4.43	302	129	100	43	121	18.1	外

注 1) 成熟期は昭和50年、53年の2カ年平均である。

2) 倒伏程度の評価は次による。

0：無 1：少 2：やや少 3：中 4：やや多 5：多

(3) 栽植密度、施肥量に対する特性検定試験

ア 栽培概要

年 次	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	畦 巾	株 間
昭 50年	3.2 kg	12.8 kg	6.8 kg	2.4 kg	60 cm	20 cm
51	3.2	12.0	8.0	3.4	60	20

標準区：10 a 当り施肥量及び栽植密度（上表）

倍肥区：各要素とも標準区の2倍量，栽植密度60×20cm 2本立

密植区：標準肥で栽植密度60×10cm 2本立

疎植倍肥区：各要素とも標準肥の2倍量，栽植密度60×30cm 2本立

早刈区：標準肥で50年9月9日，51年9月10日，60×20cm 2本立

イ 試験成績 (昭和50, 51年平均)

処 理	品 種 名	開花始 (月日)	成熟期 (月日)	草 丈 (cm)	主 茎 節 節	分枝数 (本/m ²)	莢 数 (コ/m ²)	一莢内 粒 数	10 a 当 たり			1000 粒 重 (g)	品質
									総 重 (kg)	子実重 (kg)	川西比 (kg)		
標準区	ホッカイシロショウズ	7.30	9.19	33	11.9	15.0	324	5.08	316	163	173	139	4中
	白 小 豆 (川西)	30	24	26	11.2	8.8	261	4.22	235	94	100	152	4中
倍肥区	ホッカイシロショウズ	7.30	9.19	32	11.5	15.5	321	5.42	314	172	179	136	4上
	白 小 豆 (川西)	31	26	28	11.6	14.2	309	4.03	232	96	100	140	4下
密植区	ホッカイシロショウズ	7.31	9.19	28	9.9	17.5	370	4.90	352	185	142	136	4上
	白 小 豆 (川西)	31	23	28	10.2	10.9	409	4.14	298	130	100	148	4下
疎植倍 肥 区	ホッカイシロショウズ	8. 1	9.20	32	12.5	11.9	274	4.93	254	141	153	142	4中
	白 小 豆 (川西)	1	26	30	12.5	12.5	263	4.29	207	92	100	149	4下

注) 成熟期, 品質は昭和50年の成績で示す。

(4) 低温育種実験室における試験成績 (昭和50, 52, 53年平均)

品 種 名	処理 区別	1個体当たり莢数			一 莢 内 粒 数			1,000 粒 重			1個体当たり子実重		
		莢 数	T ₀ 比	白小豆 (川西) 比	一莢内 粒 数	T ₀ 比	白小豆 (川西) 比	1,000 粒 重 (g)	T ₀ 比	白小豆 (川西) 比	子実重 (g)	T ₀ 比	白小豆 (川西) 比
ホッカイシロショウズ	T ₀	23.4	100	139	4.32	100	140	132	100	127	12.51	100	234
	T ₁ **	(8.0)	(45)	(164)	(3.60)	(85)	(165)	(108)	(79)	(128)	(3.96)	(44)	(365)
	T ₂	13.2	56	140	3.83	89	126	142	108	130	6.12	49	241
白 小 豆 (川西)	T ₀	16.8	100	100	3.09	100	100	104	100	100	5.34	100	100
	T ₁	6.6	39	100	2.47	80	100	97	93	100	1.75	33	100
	T ₂	9.4	56	100	3.03	97	100	109	105	100	2.54	48	100

注 *T₀: 無処理 T₁: 開花始より14日間低温処理 (昭和50年は15日間), T₂: T₁処理
後14日間低温処理 (昭和50年は16日間)

**昭和50, 52年の平均

9. 育成従事者

交配 ~ F₁ 野 村 信 史
 交配 ~ F₁ 佐 藤 久 泰
 F₂ ~ F₅ 後 木 利 三
 F₆ ~ F₉ 松 川 勲
 F₇ ~ F₁₄ 成 河 智 明
 F₁₁ ~ F₁₄ 千 葉 一 美
 F₁₁ ~ F₁₄ 村 田 吉 平
 F₁₄ 足 立 大 山